

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	伊那谷文化芸術祭共催事業	会計	一般会計	事業No.	795	施策順No.	27-008
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	文化会館		
施策	27 文化芸術の振興			事業期間	開始	S38	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市の人口(人) (H21.10.1推計人口)	105691	106630	105811	105036	107000	
	意図	①市民が演ずる多様な文化芸術活動を身近に鑑賞する。②文化芸術に関する日頃の練習成果を発表する。③文化協会役員と出演者が協力して文化芸術祭を企画・運営する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	鑑賞者数(人)		10038	10966	8872	7735	8000	B
	出演団体(団体)、出演者数(人)	2457	2451	2138	2500	1847	2000	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	ダンスの出演団体が減少し、出演者数、鑑賞者数ともに減少し目標は達成できなかったが、地域で活動しているアマチュア舞台芸術団体の1年間の練習成果発表の場として多くの団体が熱演を繰り広げることができた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	飯田・下伊那地域で活動しているアマチュア舞台芸術団体が一堂に会し、活動の成果を発表し、交流する機会として11月、日・祝日の4日間開催している。 この芸術祭には、合唱、器楽、吹奏楽、オーケストラ、邦楽、舞踊、ダンス、バレエ、和太鼓、演劇、人形劇など幅広いジャンルが参加し熱演を繰り広げている。 運営は、飯田文化協会が企画し、当日は参加団体選出の多数のスタッフが運営を担っている。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	第24回伊那谷文化芸術祭 (開催日時)11月7日、14日、21日、23日 (ジャンル)合唱、器楽、吹奏楽、オーケストラ、邦楽、舞踊、ダンス、バレエ、和太鼓、演劇、人形劇など	1.開催日数 2.ステージ数 3.運営従事者数	1.4日 2.96ステージ 3.294人
23年度実施計画	第25回伊那谷文化芸術祭 (開催日時)11月6日、13日、20日、23日 (ジャンル)合唱、器楽、吹奏楽、オーケストラ、邦楽、舞踊、ダンス、バレエ、和太鼓、演劇、人形劇など	1.開催日数 2.ステージ数 3.運営従事者数	1.日 2. 3.人

3 事業コスト

事業費	(千円)				特定財源内訳、補足事項
	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額		
特定財源	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源				
	計(A)	0	0	0	
	正規職員所要時間		800		
	臨時職員等所要時間		200		
	人件費計(B)		3,076		
	トータルコスト A+B		3,076		

4 事業に対する市民や議会の意見

毎年、様々なジャンルの舞台芸術団体が参加しており、市民が文化、芸術の分野で自己表現できる大変良い機会であり、鑑賞者側も多様な舞台芸術に身近に触れる機会として好評である。また、飯田文化協会を主体に、参加者自身も運営に携わっており、市民主体の文化活動として高い評価を得ている。参加団体数、鑑賞者数も安定している。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分		具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	① 市民がいつでも誰でもどこでも気軽に文化芸術に親しむことが出来るようにする。② 市民が自己表現の機会を得られるようにする。③ 市民が活動を通じて文化活動を主体的に担うことが出来るようにする。	施策の成果指標又はムス指標	文化芸術活動に無縁な生活をおくっている人の割合(%・減らす) 文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数(人)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	地域で活動しているアマチュア舞台芸術団体が一堂に会して日ごろの練習成果を発表し、多くの市民が身近に鑑賞することにより、市民が気軽に文化芸術に親しめると共に、自己表現の機会が得られている。 飯田文化協会及び出演団体が企画運営することにより、市民が文化活動を主体的に担えている。		
	後期に向けた課題	出演団体数が減少してきているため、各団体の活動が活発化し、伊那谷文化芸術祭に参加してもらえる動機付けが必要である。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	伊那谷文化芸術祭を多くの人に知ってもらい、参加団体や鑑賞者を増やすために、文化協会役員や出演団体が関係者へのPRを積極的に行ってきた。またホームページでの情報提供、新聞記事広告の掲載など効果的な広報に努めてきた。		
	後期に向けた課題	より多くの市民に参加していただくために、伊那谷文化芸術祭の開催意義や、団体が協力して取り組む事業、新たな創造活動の提案など、団体の活動に刺激を与え、発表の機会として伊那谷文化芸術祭に参加してもらえるよう働きかけていく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	入場券の印刷において、できる限り無駄を省くよう努力した。		
	後期に向けた課題	引き続きコスト削減に努める。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者は出演者と鑑賞者であり、入場券代(全期間共通で400円、当日券500円)を負担している。伊那谷文化芸術祭の経費はすべて入場券収入で賄っており、入場券代は、受益者負担の視点及び事業の健全運営の両面から検討された金額であり適切である。市は、共催者として施設使用料の減免を行っているが、市民主体の実行委員会が安定的かつ継続的に事業運営するための支援であり適当である。また事務局として、実行委員会事務局を担っているが、実行委員会が主体的に事業を企画運営するための必要最小限の支援であり適切である。		
	後期に向けた課題	引き続き、事業の健全運営と適切な受益者負担に努める。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①主体者は飯田文化協会役員と出演団体、役員は伊那谷文化芸術祭の企画、運営を担っており、出演団体も運営に参加している。 ②文化協会役員や出演団体がスムーズな運営ができるよう、全体進行管理を行っている。		
	後期に向けた課題	引き続き、市民が主体的に運営できるように支援する。		
全体を通じて	4年間の振り返り	伊那谷文化芸術祭は、市民主体の文化芸術活動の根幹を成す取組みであり、この間、多くの市民が舞台芸術活動を演じ、鑑賞し、自らが運営を担ってきたが、近年、出演者の減少と固定化が見られる。		
	後期に向けた課題	伊那谷文化芸術祭が飯田市の文化芸術活動に果たしてきた意義と役割を多くの市民が共有することにより、より多くの市民が主体的に取り組めるよう支援する。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------